

本当の地域生活とは～一緒に思い悩みながら

平成 26 年 11 月 19 日

富田 健一郎

分野が少し違って同じような事にとても思い悩む部分があって、実際に訪問している利用者の顔や生活の事を思い浮かべ、うなづきながら聞かせていただきました。

高齢の夫婦の共依存関係、重複障害のある方の生活、親が頑張り困りこんでしまって子供が社会から取り残されたままの方、自分の状況を認められずに孤立されてしまう方、サービスの受け手に甘んじている方、そして、自己満足に終わる提供側の自立に対する意識の低さなど様々事が頭をよぎって行きます。

幸せやその人らしさを外から押し付けるようになったらお終いだと思いつつも、複雑に絡みあった近い人間関係を知れば知るほど逆に動けなくなってくる事があります。

変わる事に不安があるのではなく、今の生活じゃない暮らしを実際に見たり聞くだけでなく、「実際に体験を重ねて行くこと」で知らない事に対する躊躇する気持ちから一歩進めるのかな、と感じました。それに対する支援の方が、社会保障費としては結果として少なく、しかも本人達、社会にとっても良い事につながるのではないだろうか。

周りに社会があって自分があるのではなく、自分も含めて社会なんだという意識は、一度社会から疎外感を感じずには得られないものなのだろうか。

「地域」を意識しながら、これからも私も様々な事を一緒に思い悩みながら進んで行くのだろうと思いました。